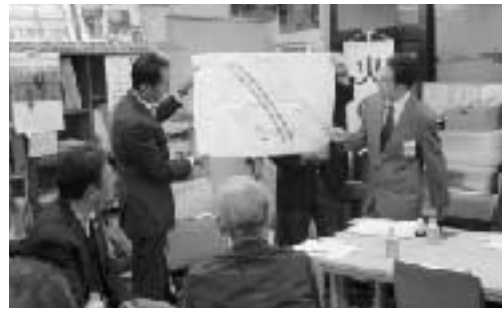


## 東京メトロ丸ノ内線中野新橋駅について

# 「努力すると聞いている」という区長の答弁、…まるで他人ごと

地元の声  
なぜ届かない!

中野新橋駅を始めとする地下鉄丸ノ内線区内各駅のバリアフリー化については、これまでも再三にわたり佐野れいじが議会で質問してきました。近隣駅のバリアフリー化が進む一方で、中野新橋駅の改良工事がさまざまな事情で（現在駅舎のある狭い敷地内で駅機能を存続させながら工事をするなど）遅れているのが現状です。



昨年12月に行われた地元町会への東京メトロの説明会

**佐野区議**「丸ノ内線中野新橋駅の火災対策について、以前（平成19年）に、平成20年度に排煙設備完成、平成21年度に2方向避難路完成との発表があったが、現時点で予定はどうなっているのか」

**田中区長**「火災対策のうち排煙設備については、この3月には完成すると聞いている。2方向避難のための非常用非難出口については、平成19年11月に着工しているが、埋設物の移設調整に時間を要したため、約半年遅れて22年秋頃の完成を予定していると聞いている」

**佐野区議**「中野新橋駅のエレベーター設置と駅舎の改修工事は当初、20年度着工で工期は4年となっていたが、メトロ側から昨年暮れに、『着工は21年度にずれ込む。ただし工期は2年』との話があったが、その後の経過と今後の見通しを聞きたい」

**田中区長**「エレベーター設置と駅舎の改修工事については、設計に時間を要したため、着工は21年度にずれ込むが、完成は当初予定した24年度となるよう努力すると聞いている」

## 中野区の介護予防事業について

参加者が  
あまりにも  
少ない

## 介護予防事業にもっと工夫を!



高齢者を対象にグループホームで行われたビッグ6ゲームの効果を見守る佐野れいじ

現在中野区において人口に占める高齢者の割合は19.4%。65歳から74歳までの高齢者の要介護等認定率は5%程度、75歳以上は同33%を超えています。将来の介護費用の抑制を目的の一つとして平成18年の介護保険制度の改正で本格的に導入されたのが介護予防ですが、新たに地域支援事業が創設され、介護予算のうち3%相当を地域の実情に応じた自治体独自の介護予防事業がスタートしました。その重要なポイントの一つが要介護・要支援の予備的な位置づけにある特定高齢者（65歳以上）向けの健康増進事業です。

ところが中野区の場合、この介護予防事業に参加された人は18年度が101人、第1号被保険者（65歳以上）のうちわずか0.17%、19年度は108人で同0.18%に過ぎません。

佐野れいじは他の自治体の例を示し、参加者をもっと増やすために脳と身体を動かしさらに楽しめる工夫をすべきだと質しました。これに対し区は「これからも多くの高齢者に参加を促していく。そのためにゲーム、太極拳、ソバ打ちなどバラエティーに富んだ事業を実施している」と答えました。